



# 水辺のひざば

No.7

2008年 9月 1日発行



(新発田川 舟入町神明宮付近)

かつては、舟も行き来した川だが、今はその面影はなく、道路が拡幅され狭くなった護岸に挟まれるかのよう。岸の底の水草を這うように流れている風景は文化でもある。文化を喪失した川は、ただ寂しく流れていくしかない。新発田川もご多分にもれず、今となっては寂しい川になってしまっている。しかし、幸いなことに、この神社の大櫓が歴史の片鱗と情緒を漂わせ、川の風景を見事につくりあげている。



## 川のあゝ風景

### 大櫓と新発田川

国道7号線から新発田川沿いの道を市街地に向かって進む。いくつか橋を過ぎると前方に大きな櫓がそびえ立っているのが見える。舟入町の神明宮の境内に立つ大櫓だ。車で走っていると、川ははるか道の下に流れておりガードレールが遮断して、その姿は見えない。この大櫓に誘われ足を止め、川を眺めてみる。水草の生い茂った川は、石垣の護岸の底を静かに流れている。いくつかの橋が架けられているが、どれも古くて狭く、行き来する人の少なさを物語っている。

## 宝物みくつけた 石泉荘



庭の中を川が流れる石泉荘

新発田市初の国の登録有形文化財(平成19年10月22日)となった「石泉荘」(石崎正弘氏宅)は、市内諏訪町3丁目にあります。

廃藩置県の後、この一帯は花街として栄えましたが、その料亭の一つ「花菱」のあったところで、大正5年、新津の製油業石崎家の所有となり、別邸として使用されてきました。

歌人として名高い初代新発田町長原宏平氏がここを訪れ、詠んだ歌(石泉荘の庭をみて)から、「石泉荘」と呼ぶようになったとのこと。

1,500坪に及ぶ敷地の中を、新発田川が流れ、中央に滝を配し、その石組みが見事と言われている庭は、明治初期に造られたものです。

離れ座敷は「花菱」時代の建物で、一部は明治37年の大火で消失しましたが、藩臣の家屋を移築したもの。風雅な茶室も現存していますが現在は非公開。いずれにしても知られざる名所のひとつです。

## くらしの方言 その1

### 「スイカが呼んでいる?」

夏のある日、市外から嫁いできた和代さんは、お姑さんからこう言われた。

「姉さ、納屋に セイガよんでるのあるすけはやしてくたえす。」

「セイガ? 呼んでいる?? ハヤス??」新潟の方言に慣れない和代さんは、キョトンとしてしまいました。

これを訳せば、「納屋に熟れて食べごろの西瓜があるので切り分けて下さい。」という意味です。お年寄りのいる家では耳慣れた言葉も、世代が途切れるとだんだん通じづらくなってきます。

「ヨム」は果物などが熟れて食べごろ。ハヤス=生やす、切るの忌み言葉であり「切りそぐ、切り刻む」「野菜を生やす」などと保元物語にも表記のある由緒正しき言葉なのです。

さて西瓜をたらふく食べた姑さんはこう言いました。

「セイカいっぺこどくうで はらくっちえでずらんね。」と。

(訳=「西瓜たくさん食べておなかいっぱいで動けません」)

## しびたの自然

### こんな場所発見

加治川の西長柄橋の右岸たもとに「加治川親水広場」と書かれた看板がみえます。夏草に覆われていますが写真からも広場を示す字が読み取れます。しかしここが親水広場で、人が川に近づいて遊べるような状態であったことなど、ここ最近はありません。

いつの時まで、ここが広場として使用されていたのでしょうか。草の丈が短い春には、川原の手前に偽木の手すりが見え一段下がって川面に近づけるようになってはいますが、手入れがされているとも思えません。土手を降りるにも誘導路は見当たらないし、放置されて荒れるに任せてある不思議な場所です。



## 編集後記

暑い夏が終わり、秋到来。今年の気候は異常ですよね。地震、猛暑、大雨、竜巻…。これ以上災害が起きないことを祈りたいものです。

異常気象といえば、以前、インターネットで読んだニュースを思い出しました。ある中学校のグラウンドをコスモスに似た雑草が占拠し、刈っても刈っても次々に茎が伸び、花をつけるため、グラウンドが使えず困っているという話でした。雑草の正体は、外来種のハルシヤギク。最初は可愛い花なので放っておいたものが、どんどん増え続け、ここ数年でグラウンドを埋め尽くすほどに増えてしまいました。小規模校なので、教師や生徒の「草取り」では対応できず、最終的には機械で刈り取るということでしたが、種は土の中に残り、来年はまた同じ状況に。自然の力って本当に怖いのです。

応援してください

### NPO法人 加治川ネット21 会員募集

年会費: 個人 2,000円 / 法人 10,000円  
 事務所所在地: 新発田市小戸886-1  
 電話: (0254) 31-4111 FAX: (0254) 31-4088  
 Mail: [kjn21@ml.shibata.ne.jp](mailto:kjn21@ml.shibata.ne.jp)  
 ホームページアドレス:  
<http://www.inet-shibata.or.jp/~kjn21/>  
 会費振込先:  
 郵便局 00500-5-35812



### 対象は小学校の先生 自然体験学習会を開催

6月21日(土)、小学校の先生を対象とした自然体験学習会が、五十公野公園で行われました。この事業は、環境学習を行う小学校の先生に、フィールドワークを体験していただくとう加治川ネット21が開催したもので、当日は、県内小学校の先生など14名が参加しました。

午前中は全員胴長姿で、雑魚取りの実習。メダカ、タイリクバラタナゴ、フナ、稚魚から、ヨシノボリ、ホトケドジョウなど希少な魚も捕獲することができました。当初は雑魚取り終了後は胴長を脱いで植物観察を行う予定でしたが、「あやめ園付近でも雑魚取りをしたい」という先生方の要望を受けて、胴長姿での植物観察となりました。



植物観察の間にも雑魚すくい

植物観察会では五十公野公園周辺における生態系の成り立ちや、植物の名前、子どもたちに興味をもたせる方法などを学びました。

午後の座学では、環境学習を行う上で必要な知識等を学び、その後、地元団体やNPOと学校との連携、環境学習支援のあり方などについて意見交換を行いました。参加者からは「体験や知識の不足をこういう場で補えてとてもよかった」という声が聞かれました。当会では、これからの様々な角度から、よりよい環境学習支援のありかたを模索していきたいと思えます。

### 全国一斉水調査 当市は4か所

6月1日(日)に「身近な水環境の全国一斉調査」が実施され、加治川ネット21も参加しました。この全国一斉調査は、全国の千を超える団体、個人の参加で実施されるもので今年が第5回目。身近な水辺の水質を定期的に調査・記録することにより環境の変化による影響などを調べることを目的としています。

当会は平成17年から参加しており、今回の調査は新発田川、清水川、天辻川、加治川の4箇所、pH、COD、亜硝酸、リン酸、硝酸、透視度の調査を実施しました。新発田川(清水園前のCOD(水の汚れを分解するための酸素の消費量)の結果はよくありませんでした。

報され、開催が危ぶまれていましたが、当日は川遊びには絶好な夏空となりました。

今回の催しの中心は、川の流れに身を任せてみようということで、参加した子どもたち25人全員にライフジャケットを着用してもらい、上流から川下に流れてもらう体験。場所は「岡田の天然プール」より上流の、川の流れが安定した上岡田野球場前を選定しました。

気温の上昇とともに水中が気持ちよくなってきた、盛んに子ども達の歓声が川面に響きました。流れてきては、又川上に戻り、繰り返して身を浮かべている様子は本当に気持ち良さそうです。ついには、大人たちも暑さに耐えきれずに一緒に川に入って楽しんでいました。ひとしきり水に慣れてくると、今度は水の中に色々な魚がいることに気づき、水中めがねや網をとりだし魚を追

いかけ始めました。水がきれいで、時折小さな川魚たちの影が水面をとおして確認できます。カジカやオイカワ、アユやイワナなどがみられ、大人が捕獲したカジカを河原の石で組んだ生け簀にいられて観察していました。

午後からは恒例の水鉄砲作りです。竹筒にいれる押棒作りに苦戦していましたが、できた水鉄砲で水をはじいたり、掛け合いっこをしたりしながら楽しんでいました。

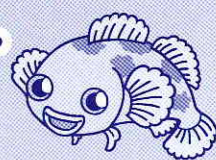
大人達も含めて、今日参加した小カッパたちは川遊びの面白さを充分満喫してくれたことと思います。



水中めがねを使って魚の観察

おいでください!

## イベントガイド



(お申し込み・お問い合わせ)  
NPO法人 加治川ネット21事務局  
電話 (0254)31-4111  
FAX (0254)31-4088  
E-mail kjn21@ml.shibata.ne.jp

### 新米「シヒカリ」と秋の味覚きの「狩り」

里山観察と食の再発見を求めて、今年も「きのこ観察会」を企画しました。里山を歩き、きのこを知り、きのこ鍋を味わい、楽しみながら学びます。当日は、二王子山麓でとれた特別栽培米の新米「シヒカリ」も味わっていただきます。

と き: 10月11日(土)

午前8時～午後3時(予定)  
場所: 新発田市板山地区  
集合: 午前8時までに板山集落センターへ  
講師: 松本則行氏(新潟県森林研究所専門研究員)  
参加費: 1,500円  
(保険料、新米コシヒカリおにぎり、きのこ鍋ほか)  
定員: 40人  
その他: 昼食の食器や箸は各自持参

### 小学生の環境学習 成果発表会とパネル展

【環境学習成果発表会】  
小学校では総合学習の一環として、環境学習に取り組んでいる学校が多くありますが、子どもたちのすばらしい学習成果を発表する場がありません。そこで、昨年に続き、今年も環境学習成果発表会を企画しました。無料です。

と き: 平成20年11月16日(日)  
午後1時30分～3時30分  
場所: 新発田市生涯学習センター1講堂

発表校: 新発田市内及び聖籠町の小学校5校程度  
同時開催: 小学校環境学習パネル展示 正午～午後4時30分  
【小学校環境学習パネル展】  
と き: 平成20年11月8日(土)～11月15日(土)  
午前10時～午後10時  
場所: イオン・ジャスコ新発田店 1階中央ロビー  
内容: 市内小学生が作成した環境学習のパネル展示

### 寄稿 会津街道てくてく旅①

6月7日(土)から8日(日)の二泊三日の日程で第2回の会津街道てくてく旅が開催されました。昨年は五十公野御茶屋から津川まで歩き、今回はその続きで、津川の狐の嫁入り屋敷(昔、代官所があった場所とのこと)から会津坂下までの約50キロの道程。9人(内、ネット会員5名)が挑戦しました。

野村を過ぎ、49号の路肩をひたすら歩く。道はだらだら上り。平石を過ぎ、しばらく行くと、道路左側に「一里」と彫られた石がありました。この辺は急峻で塚を築けなかったようで、塚の代わりの一里石です。昔はこの下のほうの旧道にあったのですが、道路改修の際現在の場所に移設したとのこと。そこからしばらく登ると八木山の集落です。八木山集落には、昔本陣として使われた渡部家のお屋敷があります。初日の宿泊場所、西会津町の野沢はまだまだ先です。(次号に続く)

### 地域を花いっぱいになりたい 花ふやし隊



草が生い茂った空き地を目にし、「ここに花があったらどんなにいいだろう…」という思いから、花いっぱい活動をしようとして平成10年のみどりの日に発足しました。

「楽しいから続くんだ」を合言葉に、みんなと一緒に汗を流しながら、地域に色とりどりの花を植えたり、通学路にプランターを設置したりしています。主に紫雲寺地区を中心に活動している会です。花を見た人の喜ぶ姿が、この活動を長く続けている源になっています。

【お問い合わせ】  
TEL 0254-41-4592  
(花ふやし隊隊長 小林 薫)

## 環境豆知識

### 森の保水力

「森の保水力」とは一言でいえば森林が水を貯めておける力のことです。森の土壌は、雨などを地中に一時的に蓄えて、徐々に放出させる能力を持っています。

1993年に白神山地のブナの原生林が世界遺産に登録されてから、ブナ林などの広葉樹が針葉樹よりも水を蓄えるのに優れているという認識が広まっています。しかし、スギやヒノキなどの針葉樹が健全に棲息する土壌と広葉樹の天然林の土壌とでは、浸透できる水の量に大差は無いとの測定結果もあります。

問題なのは、戦後に植林された針葉樹の林が、人手や資金不足で手入れが行き届かず過密状態となり、下草も生えず、むき出しの地肌の土壌が降雨のたびに侵食されていることです。適正に間伐し、陽の光が届くようにすれば下草が活力を取り戻し、土が蘇り、保水力のある土壌ができるのです。

参考出典:「生き生きこうちの森」より